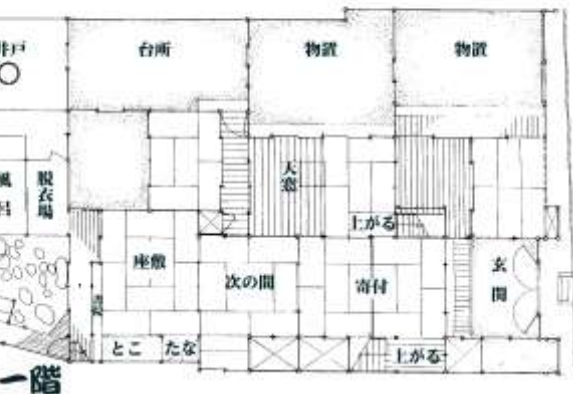
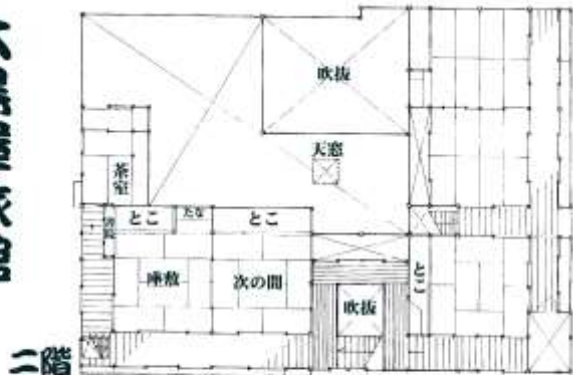


細久手宿 大黒屋



大黒屋旅館 間取り図



宿泊のご案内

創業	慶長年間
建物	安政6年(1859年)建設、木造2階建
客室	6部屋
ご宿泊	お一人様より、お受けいたします 12名様位まで、ご利用頂けます ＜一団体の場合＞
ご宿泊料金	お一人様、一泊 9,820円から ＜朝・夕二食付きにて＞ 小人 ＜お問い合わせください＞
お食事時間	夕食 6時～7時・朝食 7時～8時
ご会食	20名様位まで、ご利用いただけます
ご会食料金	昼/1,500円～ 夕/3,000円～
チェックイン	午後3時以降に、お願いしております
チェックアウト	午前9時までに、お願いしております
ご見学	営業時以外でのみ可能です ＜お問合せください＞



中山道細久手宿 大黒屋旅館

住所: 〒509-6251 岐阜県瑞浪市日吉町7905-1

電話: 0572(69)2518

Email: hosokutedaikokuya@gmail.com

Url: <http://hosokutedaikokuya.web.fc2.com/>

国登録有形文化財

姫街道中山道

大黒屋



中山道細久手宿（ほそくてしゆく）は、

海拔四二〇メートルの山中に發達した、江戸から四十八番目の宿場で、東北から南西方向に緩い下り坂が一筋に延び、その長さは四百メートル余り（三町四十五間）。

慶長十五年（一六一〇）に設置され、江戸時代後期の天保十四年（一八四三）の記録によると、戸数六十五軒を数え、うち二十四軒が旅籠を営んでいた。

その一軒が、『尾州家定本陣大黒屋』であった。

細久手宿の本陣・脇本陣が手狭になり、他領主との合宿を嫌った領主尾洲家が、問屋役酒井吉右衛門宅を「尾州家本陣」として定めたのが、『尾州家定本陣大黒屋』のはじまりである。

宿内町並み

細久手宿内は、東の高札場から西の日吉・愛宕神社入口まで宿長三町四十五間。

宿内往還は、平均中2間半（約五メートル）。宿内五十軒の家々は、概ね間口六間半（約十二メートル）に地割りされ、宿人馬役としての宿役のほか、旅籠屋を兼ねて往還の左右に町をなしていた。



宿内は、東方から

上・中・下町に三区分され、榊形（鍵の手）はなく、上・下両町が弓形（曲り）に造られていた。



『大黒屋』

の特徴は、軒廂付切妻造の二階建てで、両端に本卯建を上げ、二階が一階に比して目立って低いことは、家の古さを示し、宿場時代の遺構とみられていたが、近年奥座敷前の緑東に「安政六年（一八五九）十二月六日清七 米九合」の墨書銘が発見され、安政五年（一八五八）の大火類焼直後に再建された家であることが確認された。

旅籠屋で年代の判明した唯一の例として貴重であるとのこと。

意匠的にもすぐれ、とくに二階奥座敷の床・棚・書院の構えある室では床柱に太目の丸柱を用い、半丸の長押を用いるなど、この辺で見かけぬ数寄屋造であるうえに、次之間とともに障子腰板に松、秋草を描き、次之間の床壁にも杉らしい樹木を描き、剥落がはなはだしいが、品雅な筆致であるなど、江戸後期には見難い意匠である点、注目すべきことである。

また一階奥座敷には数寄屋がないが、二間の付書院の上方は雲形板となり、床は七尺五寸の大床であり、棚構えでは斜めに向いた地袋上に棚を置くなど創意に富み、天井高がとくに高いことは武士や高貴な客を泊めた特殊な工夫とみられる。